

# 外口ポリタン

## ◆玉川高島屋の屋上で星空観察会

星空観察会「たまがわスターウォッチング」=写真、イメージ=が5~7日、玉川高島屋S・C(東京都世田谷区玉川)の本館屋上フォレストガーデンで開かれる。  
夏休みイベント「たまがわ夏祭り」

## 東京情報

の一環。講師は、元国立天文台職員の大川拓也氏(東京工業大研究員)で、夏の星座や月面などを観察しながら学ぶ。午後7時半~9時。対象は小・中学生(小学生は保護者同伴)で、各日先着30人(受け付けは午後6時半から)。参加費無料。問い合わせは、同S・C=電03・3709・2222=へ。



## 外国人減る地方観光地



リャン 梁

ツァンシャン 春香氏

東洋大学 国際地域学部教授

1952年、中国・青島生まれ。日 中韓観光協力機構理事長兼務

東日本大震災を機に日本の多くの観光地でかつてのにぎわいが消えてしまっている感がある。統計によると三月、四月の訪日外国人は前年同期に比べおよそ六割減少。日本人の国内旅行や海外旅行も史上最大の落ち込みになっているという。

人の移動と交流が停滞し、地方の観光業界は悲鳴を上げ、休業や廃業の店舗も目立っている。人的な交流と移動が地域の生産活動や経済活動にどれだけ重要か裏付けられた結果ともいえる。

それでも被災地が少しずつ復興し、最近では人的な移動と交流が回復されつつあるようにみえる。だが、国内観光は例年に比べ半分程度にもいかず、回復の道のりはまだ遠いといわざるを得ない。

大震災の影響がここまで及んでいるのはなぜなのか。影響はむしろ日本全体に及んでいる。その多くの原因は福島原発事故によるところが大きい。

これも直接の放射能被害というよりも風評被害の影響が大。その影響を取り除くには第一に世界に向けて、日本がすべて「フクシマ」の状況にないことを情報発信し、原発によって形成されたイメージをチェンジすることが大切で、正確に情報を伝える努力をすべきである。

世界中で日本「フクシマ」というイメージが形成されてしまっていると危ぶる。福島原発事故後、米国の新聞に「人

が眼鏡でリングを見て、このリングはどこからきたのか、日本なら、大丈夫かという意味のコメントがあった。中国では、福島の原発事故をメディアで知ってからの反応は日本以上。「食塩」の買いだめ騒動まで起きた。福島の事故ですでに中国人は観光活動ばかりか日本そのものを敬遠してしまっている。

いま日本に必要なのは地方は地域力をもっと発揮し、訪日外国人の誘致活動を活性化させる。対中国の場合、日中間の友好交流都市の関係を生かし、訪日の誘致活動をする必要がある。

私が理事長を務めるNPO法人「日中韓観光協力機構」は、日本の元気を伝えるために第一回観光フェアを九月に中国・天津で開催するものになっている。そこで中国の一般市民に訪日をPRするつもりである。

が虫眼鏡でリングを見て、このリングはどこからきたのか、日本なら、大丈夫かという意味のコメントがあった。中国では、福島の原発事故をメディアで知ってからの反応は日本以上。「食塩」の買いだめ騒動まで起きた。福島の事故ですでに中国人は観光活動ばかりか日本そのものを敬遠してしまっている。

いま日本に必要なのは地方は地域力をもっと発揮し、訪日外国人の誘致活動を活性化させる。対中国の場合、日中間の友好交流都市の関係を生かし、訪日の誘致活動をする必要がある。

私が理事長を務めるNPO法人「日中韓観光協力機構」は、日本の元気を伝えるために第一回観光フェアを九月に中国・天津で開催するものになっている。そこで中国の一般市民に訪日をPRするつもりである。

# 効果的なトップセールスを

大震災後、栃木県日光市に観光調査に出かけたが、台湾から約三百人の観光客が来ていた。地元市長が自らトップセールスで台湾に出かけたという。そういった工夫は効果的である。直行便で結ばれて

いるそれぞれの都市間の交流イベントを開催する工夫も、さらに進めるべきである。

これまでの統計では香港・マカオを除き日本は中国人の外国旅行の目的地として、ほぼ継続的に一位であったが、今年は韓国、東南アジア諸国が取って代わるに違いない。私としても訪日の減少を最低限度に抑え、相互理解を深めることに寄与したい。



栃木県日光市の老舗ホテルの支配人から大震災後の観光状況を聞く東洋大学の学生たち=6月11日、梁教授提供



震災と向きあう

大震災後、栃木県日光市に観光調査に出かけたが、台湾から約三百人の観光客が来ていた。地元市長が自らトップセールスで台湾に出かけたという。そういった工夫は効果的である。直行便で結ばれて

いるそれぞれの都市間の交流イベントを開催する工夫も、さらに進めるべきである。

これまでの統計では香港・マカオを除き日本は中国人の外国旅行の目的地として、ほぼ継続的に一位であったが、今年は韓国、東南アジア諸国が取って代わるに違いない。私としても訪日の減少を最低限度に抑え、相互理解を深めることに寄与したい。

的交流も進める。「日本の観光立国政策の実現は地方から。地方にいけば自然の美しい、伝統文化のある日本が発見できる」と梁春香理事長は言う。

日中韓観光協力機構 ことし1月に設立され、観光の専門家や実務家、観光関連企業を会員とし、事務局は東京都港区芝浦2丁目。日本や中国、韓国の

観光分野で互いに協力するのが目的。特に地方間の観光交流や文化理解の促進活動、観光に関する研究、調査活動などをとする。3国間の国際親善や相互理解を深める一方、人

読者の皆様のご意見を募っています。首都圏編集部「談論誘発」係=ファクス03(3595)7085、Eメールsyutoken@tokyo-np.co.jp=へ。

## ののさまといっしょ

いま、一歳をむかえた娘はあんなの練習の真っ最中。大きな木の根に足をのりながら何度も立ち上がる姿もまた、成長の一ページである。

(東京都 渡辺暢子)

## 娘の成長見守る祐天寺



ら、きれいに色づいた桜の葉をいただいたこともあった。雨上がりの土のにおいが格別で、思わず親子で深呼吸してみたこともある。いつしか、季節とともに移り変わっていくのにお寺とその景色が、娘の成長を彩り、見守ってくれている。

春と初めて祐天寺を訪れたのは、いまからちょうど一年前のことだ。生後三月月、ようやく外の世界を楽しめるようになった娘を、雨に洗われた桜の緑がきらきらきらと祝福するように光っていた。それからは江戸時代から続くこのお寺が私たち親子のお気に入りのお散歩コースになった。

夏祭りには、初めて訪れる夜の散歩コースになった。

お寺の幻想的な雰囲気にも驚かされ、続く猛暑の日々は木陰でその涼しさを楽しんだ。秋の日に、境内を掃き清めのお坊さんか

寄りたに大茶樹から収穫されたお茶をブレンドした。大茶樹は山間部の同市瀬戸谷地区にあり、平口さんの先祖が種をまいたとされる。今年

平口さんは施設で、「長寿の香りを飲んで、心が元気になれ、元気がわき長生きできるように」と語りかけた。

●「ほっとコラム」はこちらへ 「オススメの東京」をテーマにしたコラムを毎週「切手」でお届けする。掲載された作品の応募者には図書カード1000円分をプレゼント。応募内容と過去の掲載作品は「東京新聞ほっとWeb」にて。検索は「東京ほっと」で。